



一般社団法人 すこやかのかいふくしま(第1号)

NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会(第27号)

ニュースレター 合併号

本号は、一般社団法人「すこやかのかいふくしま」とNPO法人「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」のニュースレターの合併号として、2つの法人の活動の報告をします

児童養護施設を卒園した若者への支援の取組み

卒園生支援の始まり

NPO法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会(以下 ICA 福子)による卒園生支援の始まりは2015年、甲状腺エコー検査を児童養護施設で実施したときに、里帰りしながら検査を受けられるために交通費の補助でした。これまでに40人を支援してきました。そして検査の結果を貼った「健康手帳」を渡しました。

健康手帳の作成、卒園生への支援の必要性

「健康手帳」は、原発事故で放出された放射能による健康への影響を検査した甲状腺エコー検査結果などを1冊にまとめた冊子で、2013年3月の卒園生6名(2施設)から贈呈を開始しました。2016年3月に、卒園生がいる7施設で卒園時に贈れるようになりましたが、この間に「健康手帳」を渡せていない卒園生11名(4施設)に、施設職員が届けに行く事業を2016年に実施しました。この過程で独り立ちして卒園した後こそ、自分で健康管理をすることが卒園生にとって大変であることを知り、自立してからも支援を続ける必要を感じました。



卒園生とのつながり

そこで卒園後の健康管理を視野に入れた事業を、2018年2月から開始。福島県内の児童養護施設を卒園する前に郡山の会場に集合して受ける「エンジェルサポート自立支援プログラム」(福島県児童福祉部会)で、「一人暮らしになってから困らない病気やケガの時のファーストエイド」「卒園後も甲状腺検査を受け続ける方法」について、卒園生にお話しする時間を作ってもらいました。

卒園生支援の法人設立へ

卒園予定の高校生に説明をしながら、NPO法人の名称「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」で卒園後の支援を継続すると、卒園生が「児童養護施設の子ども」だったことが明らかになるため歓迎されないこともわかりました。そこで、卒園生支援に特化した一般社団法人「すこやかのかいふくしま」という名称で2019年12月に、児童養護施設を卒園した後も支援を届ける法人を設立しました。代表は児童養護施設から多くの卒園生を送り出している、齊藤久夫が就任しました。

2つの法人は、現在、同じ事務所を利用しています。法人の連絡先は、下にまとめました。

←被曝モニタリング検査の結果をまとめて記録できる健康手帳
母子手帳を持たない児童養護施設の子どもがいるので、成長の記録、予防接種の記録のページも入れました
ページが増えても困らないようファイルに検査結果も綴じるようになっています

NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

代表理事 澤田 和美(福島事務所 事務局長)、塩飽 仁(東北大学大学院 小児看護学 教授)

連絡先・Email fukujidou@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.fukujidou.org>

一般社団法人 すこやかのかいふくしま

代表理事 齊藤 久夫(元 児童養護施設 福島愛育園 施設長)

連絡先・Email fsukoyaka@yahoo.co.jp ホームページ <http://www.sukoyaka-f.org/>

共同事務所：〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5 メゾンオーブ C203 電話・FAX: 024-573-2939

卒園した若者を支える体制を2つの法人で構築しています

1. 「一般社団法人すこやか会ふくしま」のこれまでの活動

①「スーツ購入自立支援プログラム」の実施

最初の活動は「スーツ購入自立支援プログラム」(社会人として必要になるスーツを予算内で購入して、すこやか会に礼状を書き、報告するというもの)で、2021年3月に高校3年生として社会に出る18名に、卒園生自身が選んだスーツを贈るプロジェクトでした。さらに児童福祉部会の集合型「自立支援プログラム」が、2021年はコロナ禍で対面での開催できなくなるので、各施設で自立支援教育をする時の講師料の補助をしました。2021年に卒園した若者には「すこやか会ふくしま」が卒園後も支援を知ってもらうことができました。

②「アフターケア研修会」の開催

施設の職員向けの事業として「アフターケア研修会」を実施しています。施設では卒園した若者を継続して支える担当職員が配置されるようになり(児童自立支援専門員)、この専門職を対象にオンライン研修会を開催しました。初回は2021年11月15日からで、最初は各施設のアフターケアの実際を報告してもらい、今年6月までに全4回開催しています。現在は事例検討会を継続しており、オンラインという非対面の限界はありますが、児童養護施設の自立支援専門相談員の横のつながりを作ることができました。

2. 食料支援を133名の卒園生に届ける

2021年から始めた、児童養護施設を卒園した若者に食料を届ける事業(食糧支援)は今年が3年目になります。福島県内6施設・133名の卒園生に9月から11月に届けることができました。支援を希望した児童養護施設と事前の打ち合わせをし、担当職員からの希望と、昨年の食料支援の中に一緒にハガキを入れて、卒園生自身に書いてもらった希望の品を参考に一人2500円程度の食料を入れました。卒園生か

らのリクエストのお菓子は甘栗やグミを入れてみました。そして「すこやか会ふくしま」のQRコード入りの名利カードも入れました。

今年は食料支援への感想をGoogleフォームで入力して、直接本会に書き込んでもらっています。一方、スマホを使えない卒園生もいるので、この若者の声をどのように聞いていくかを検討しています。

3. 2法人の協働事業としての食料支援

食糧支援を届けられる卒園生の増加

初年度は112名、昨年は121名、今年は133名と人数が増えています。そして133名中39名には、施設のアフターケア担当者が住まいを訪問して、手渡しをしてくれています。この訪問は、週末や卒園生が仕事から帰宅後の夜の時間帯ですが、職員が時間を工夫して卒園生に食料を手渡しに行き、近況を聞き取り、時間を共有することができます。

にかけて食べるものは助かりました」と卒園生からの要望を反映したので、喜んでもらえました。「今後も定期的にいただけたら嬉しいと思います。缶詰系が嬉しいです。」「買い物に行けないときに使える品物があるので助かります」「何もないときに助かる」などという声も寄せられました。

食糧支援を通じて施設と卒園生とのつながり

卒園生からの感想では、「毎年頂いて、生活するのに助かってます。あと、毎年頂く際に施設の職員とも連絡を取ることが出来て楽しみにしています。」という声が届きました。施設の担当者と卒園生が繋がる機会は、卒園生にも励みになっています。また、グループホームで生活する人からは「食事の提供があるので、ふりかけ等のご飯

「毎年、という安心感

3年間続けることで、卒園生からは「毎年、という安心感を提供できていることを改めて感じました。

この事業は、食料品、非常用懐中電灯、梱包材料などはNPO法人ICA福子から、宅急便を施設から卒園生に送る送料、施設と事務所間の交通費、また施設が発送の手間を担ってくださる謝金は一般社団法人すこやか会ふくしまから拠出して協働事業としています。指定寄附を頂いた皆様に深く感謝いたします。

処理水海洋放出中の原子力発電所を視察

緊急時マニュアルの改訂に向けた視察の実施

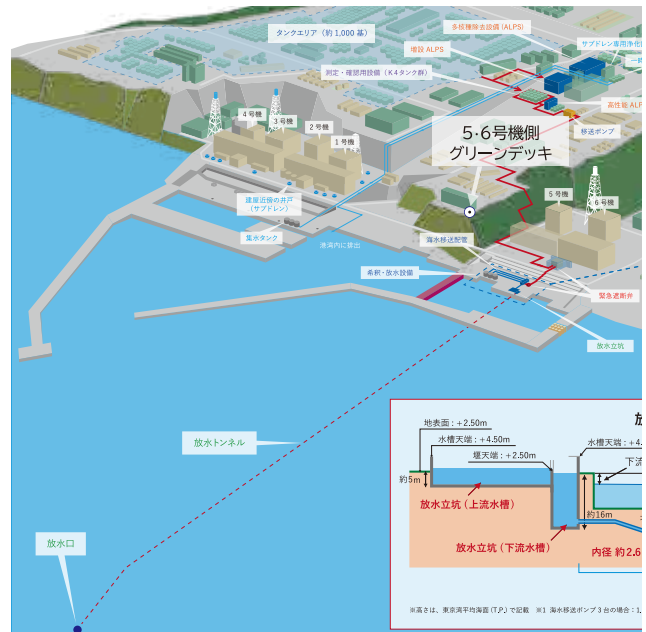
2011年3月の原発事故直後の避難経験から作成された「原子力発電所の事故にかかわる緊急時の対応マニュアル」と児童養護施設間の災害時の避難の相互応援協定(2012年5月締結)を、児童養護施設の役割の変化もあり、改訂作業を開始する前に福島県内8児童養護施設長、防災の担当の職員など、総勢21名と、東京電力福島第1原子力発電所の視察を、9月6日に行いました。

事故を起こした原子力発電所内部

視察当日は第1回海洋放出中(8月24日~9月11日)で、5、6号機側「グリーンデッキ」から海洋放出が行われている地点をみる事ができました。排水口は海底であり、その位置を示すのは、海面に2キロ四方にオレンジ色のブイが浮かび、この対角線の交差する位置との説明で、海面上の変化は肉眼では確認できませんでした。

また、1~4号機の原子炉まで約80メートルのブルーデッキに立ち、原子炉の大きさに圧倒されました。1号機はガレキ撤去するためのカバー(完成時高さ65メートル)が設置される工事中でした。

(テロ防止のために写真撮影は不可)



引用 <https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/link/>

廃炉が終わるまでは海洋放出が続きます

これに先立ち8月28日に、第7回福島第1廃炉国際フォーラム(原子力損害賠償・廃炉等支援機構主催)の2日目に齋藤(すこやかのかいふくしま代表)と澤田(ICA 福子共同代表)が参加しました。そこで「燃料デブリの大規模取り出しに向けて(燃料デブリ取り出し工法評価小委員会 委員長 更田豊志)」では、

- ① 気中工法：燃料デブリが空気中に露出した状態で水を掛け流しながら取り出す方法
- ② 冠水工法：原子炉建屋全体を船の形の構造体をつくって覆って原子炉建屋に水を満たして燃料デブリを取り出す工法
- ③ 充填固化工法：充填剤によりデブリを安定化させつつ現場線量を低減し、掘削装置により燃料デブリを構造物や充填剤ごと粉碎・流動化して循環回収する方法

が、紹介されました。メルトダウンを起こした1~3号機には880トンのデブリがあるとされ、このうち②③の取り出し方法は、現在ある建物をさらに構造物で覆いながら施行をすることとなり、作業工程に時間を要することが予測されます。



専門家を招いた勉強会の開催

廃炉の方法が事故から13年近く経過しても決まらない理由は、原子炉内の状態が把握できていないためであり、2号機内で開始されている内部の調査が予定通り進まないためです。

この廃炉の困難な現状を踏まえ、今後の避難のリスクを見通した緊急時対応マニュアルの改訂ができるように、木村真三先生(獨協医科大学)に講演を11月30日に開催しました。

ご支援いただける活動へご寄附を

前例のない児童養護施設に特化した事業の提供

これまでの皆様からのご支援により、2012年の原発事故1年後でも支援が行き届いていなかった児童養護施設の子どもと職員への被曝防護対策から始まり、施設で育つ子どもだから必要とされる対策を、迅速に具体化することができました。改めて御礼申し上げます。

2019年に「すこやかのかいふくしま」を設立して児童養護施設の入所からシームレスに施設を卒園した後の検査・健康手帳を活用、さらに万一健康被害が出てきたときのフォローを継続するために2法人が協力して活動を展開しています。

今後は、目的に応じた寄附先を選んでいただくことに

年末のご寄附は、どちらの法人にするか選んで頂きたい、改めてお願いいたします。

NPO 法人 ICA 福子へのご寄附

主な活動対象

- ・ 児童養護施設に入所している子ども向け事業
- 実施事業
- ・ 施設の災害対策や原発事故による教訓のまとめ
- ・ 被ばくモニタリング検査としての甲状腺検査
- ・ 健康手帳 贈呈事業
- ・ 卒園前の準備教育
- ・ 児童養護施設の看護師研究会の支援

ゆうちょ銀行

店名：二二九店(店番号 229) 種類：当座預金
番号：02220-2-118684
名称：福島児童養護施設の子どもの健康を考える会

大東銀行

店名：福島西支店(店番号 047) 種類：普通預金
番号：1303901
名称：福児童 代表 澤田和美

三井住友銀行

店名：白山支店(店番号 228) 種類：普通預金
番号：6854164
名称：福児童 代表 澤田和美

一般社団法人すこやかのかいふくしまへのご寄附

主な活動対象

- ・ 卒園した若者の健康を支える事業
- 実施事業
- ・ 甲状腺の検査を受ける卒園生への交通費補助
- ・ 食料支援
- ・ 健康被害発生時の検査・治療

ゆうちょ銀行

店名：二二九店(店番号 229)
種類：当座預金
番号：02230-5-128642
名称：一般社団法人すこやかのかいふくしま

大東銀行

店名：福島西支店(店番号 047)
種類：普通預金 番号：0307080
名称：シャ) スコヤカノカイフクシマ
代表理事 齋藤久夫

年賀状の書き損じはがき、未使用切手による寄附は NPO 法人 ICA 福子 で受け付けます。

感謝！ ご寄附・未使用切手、会費納入を頂いた皆様 (順不同 敬称略)

▼NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会(2023年6月16日～2023年11月15日)

国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会、Casa d'angela 天使の募金(永見 亜矢子)、ドイツ居合道会、女声合唱かまくらの風 第13回定期演奏会、感じる心を大切に作る会、戸塚ルーテル教会教会学校、下落合教会みどり幼稚園 青木 里美、青木 雅子、秋山 道子、雨宮 春子、安間 てう子、石川 信克、石原 昌子、糸柳 尚子、稲福 祐子、岩田 千鶴子、榎本 順一、海老澤 のり子、蝦名 美智子、金児 恵美子、喜多野 由希、工藤 美子、久米 晶子、笹鹿 美帆子、佐藤 由美子、澤田 和美、澤田 稔、菅野 勇一郎、高木 史江、田上 文子、滝口 香奈子、竹内 由美子、竹中 眞美子、豊田 佳菜枝、中野 陽子、深野 善人、細川 稔、前村 恵、増田 高子、松岡 恵、三谷 美香、三宅 光子、村本 淳子、安江 真佐子、吉田 妙子、小松 美穂子、馬淵 由季子、和田 信明、匿名2名

▼一般社団法人 すこやかのかいふくしま(2020年～2023年11月15日)

2020年：Anna Maria Okada、塩飽 仁、齋藤 久夫、小田 美乃里、中島 隆宏・祐子
2021年：大島 健一・庸子、池口佳子、蝦名 美智子、齋藤 久夫、小田 美乃里、澤田 和美、2010 オリーブの木、日本ルーテル教団
2022年：佐川 真理子、橋本 由利子、福田 真弓、山田 忠昭、田中 とよ美、中野 陽子、長松 康子、馬場 隆、大谷 尚子、志賀 正男、日本ルーテル教団 関東地区、村田 貴志子、武藤 久美子、小田 美乃里、磯部 和子、奥野 順子、大塚 千織、田上 文子、立川 洪介、山縣 敦子、松原 悦子
2023年：山田 和子、本田 裕子、川瀬 愛・新潟聖書教会、齋藤 久夫、Anna Maria Okada、日本聖公会 婦人会 感謝箱献金、小田 美乃里、山縣 敦子、赤坂 康子、増田 高子